

# NAKASAKU Co., Ltd.

## ナカサク 厚生棟 竣工のご案内

株式会社ナカサク  
厚生棟新築プロジェクト  
2025年8月～2026年1月

株式会社ナカサク

オブザーバー	代表取締役	中作 佳正
プロジェクトリーダー	常務取締役	中作 翠
プロジェクトメンバー	加工部 係長	中作 護
	加工部 課長	高橋 優輔
	湖南製造部 係長	瀬古 順一
	設計部 係長	山田 龍平
	電気制御部 副主任	佐川 峻輔
	経理部 副主任	城戸 久瑠見

株式会社澤村

代表取締役	澤村 幸一郎
プロジェクトリーダー	河村 直子
ワークショップデザイン	和田山 翔一
設計・空間コーディネート	南 勇次
現場代理人	奥嶋 亮平
現場員	乾 竣二
現場員	佐野 奨真

Build by **SAWAMURA**



?×!=∞ (task×idea=solution) —  
ユーザーとともに課題に向きあい、  
アイデアをかけあわせ、無限の可能性を生みだす。

そんなナカサクであり続けるために、  
多様な時代の海原に、新たな船を漕ぎ出しました。

そのひとつが、創立100周年を機に竣工した新・厚生棟です。

単に食事や休憩をするだけでなく、部署間の絆を深めたい。  
産学の連携を通じて、技術開発の芽を育てたい。  
工場視察や採用活動の際には、ナカサクの本質を発信したい。

だからこそ、経営層から与えられたものではなく、  
ワークショップを通じて、できる限り社員の思いを込めました。

これからのナカサクをつくる、  
未来への架け橋となる厚生棟の誕生です。

今よりもっと多様な「?」と「!」が集まって、  
やがて大きなイノベーションへ。

新しいナカサクに、ご期待ください。

ナカサクのこれからをつくる、  
イノベーションを創出する厚生棟へ。



メインの食堂エリア



エントランスに企業メッセージのサインを設置



座席の雰囲気を変える窓際のペンダント照明



面談やオンライン打合せに対応できる個室



斜めのラインが連続するプロジェクトルーム



奥行きと落ち着きのある廊下



様々な素材が交わる食堂の配膳スペース



無限大の形状を表現したペンダント照明



カウンター席のあるフリースペース



## Project Interview

member



常務取締役  
中作 翠



加工部 係長  
中作 翠

observer



SAWAMURA  
南 勇次



SAWAMURA  
河村 直子

## 社員の想いを詰め込んだ、 垣根をこえて混ざりあう新拠点。

ナカサク創立100周年を機に、新・厚生棟が竣工。新しい厚生棟は、どのような経緯で、どのような想いをこめてつくられたのか。これからのナカサクを担うプロジェクトのコアメンバーに語っていただきました。

### 新・厚生棟の設立の経緯を教えてください。

**護さん** 旧厚生棟が建ってから約40年が経ち、設備も古くなってきていました。また、2026年にはナカサク創立100周年ということもあり、この機会に新たな厚生棟への建て替えの検討を開始。2023年1月のことでした。

**翠さん** プロジェクトの初期メンバーは、護さんと社長と私の3人。ビルダーには、豊富な実績とデザイン力・提案力が魅力的なSAWAMURAさんを迎えました。新しい厚生棟を価値あるものにするためには、どのような機能が必要なのかということからさまざまなアイデアを出していきました。

### 3年におよぶ長期プロジェクトは、 どのように進行していったのでしょうか。

**護さん** 次の時代のナカサクを象徴する建物にしたい。だからこそ、あんなことも、こんなことも詰め込みたい。そう意気込み議論しているなか、河村さんより「食堂で食事をとられたあと、ほとんどの社員が退出されます。次の厚生棟では、社員のみなさんにもっとここを活用してもらえ場所にしたいです」という言葉をいただき、ハッとしました。



**翠さん** 必要な機能や大まかな予算がみえてきて、建物がだいたいイメージできてきたけど、これってほんとに私たちにとって使いたい厚生棟なの!?

**護さん** そう。河村さんの言葉で立ち止まることができました。同時に、これはいい厚生棟がつくれそうだなと思いました。その後、プロジェクトメンバーを募りプロジェクトチームを発足し、SAWAMURAさんにワークショップを開催していただき、社員の意見を拾い集めていきました。

**翠さん** 「新しい厚生棟に求めるものは何?」というアンケートも全社にとりました。「シャワー室やロッカーにエアコンが必要」や「作業着を洗える洗濯機の必要性」など、確かにそうだなと思う納得の意見が多々ありました。

**護さん** なかでも「ふだんから隣の部署へ行きやすいようにしたい」という意見は、今後のナカサクの成長にとっても非常に重要なポイントだと感じました。食事を終えたらすぐに退出するのではなく、部署をこえたコミュニケーションが自然と生まれるような。そんな場所になれたらという想いで、「クロスオーバー」というコンセプトに辿り着きました。



### コンセプトに込めた想いと、 外観・内装などへのこだわりを教えてください。

**護さん** もともとナカサクは掛け算の発想を大切にしている、企業メッセージも「? $\times$ ! $=$  $\infty$  (task $\times$ idea=solution)」を掲げ、提案力と開発力と製造力を掛け合わせて無限大の価値を生み出すことをめざしています。この企業メッセージにぞらえ、部署をこえて混ざりあい、自分の強み $\times$ 他者の強みで新しい価値創造の拠点にしたい。そんな願いを「クロスオーバー」というコンセプトに込めています。

**翠さん** たとえば、窓際にテーブルと椅子を配置するなど、行動心理学的な観点からもコミュニケーションが活発になるよう南さんからご意見をいただきながら内装を決めていきました。ふだんの業務では機械油を使うため社員の靴の裏は真っ黒。なので動線上に足跡がつくんです。でもその汚れさえもデザインに取り入れてしまおうと、床の素材のサンプルを踏んでもらい、どれが一番おしゃれに見えるかなどかなりこだわって検証しました。

**護さん** ほかに、これも南さんのご提案で気に入っているんですが、1階床と天井の色の切り替え。この切り替えしが重なることで「 $\times$ 」の文字が浮かび上がらせ、コンセプトであるクロスオーバー～掛け算の発想～を表現しています。2階の床も色を切り替えしており、これはなんとナカサクの「N」を表しているんです。言葉ではわかりづらいので、ぜひお越しいただいた際にそのあたりも楽しんでいただければ幸いです。

**翠さん** 無限大のかたちをした照明や衝突防止シールなど、随所に垣間見られる遊び心も、自由なコミュニケーションが生まれる重要な要素だと考えています。また、プロジェクトルームでは、大学や協会会社とともに新たな研究開発や課題解決の場になればと、セキュリティにも配慮。これからここで何が生まれていくのか、至るところにワクワクがちりばめられているんです。

### 新・厚生棟とともに創っていく、 将来のビジョンを聞かせてください。

**翠さん** 私たちの想いを込めた厚生棟ですが、建物ができて完成ではありません。これから多くの人に活用してもらうことで、「?」が集まり、「!」になって、無限大の可能性が生まれ、発展していく。そのきっかけとなる建物にしていければと思います。

**護さん** 新しい厚生棟は、ユーザーの課題を解決するためのひとつの装置ともいえます。価値観が大きく変わっていく時代に、部署・国籍・AI・取引先様などいろいろなものが混ざりあい変化しながら、さらによりよい物を生みだしていく。そんな新しい価値をもつ厚生棟を、社員みんなで作ってあげていきたいと考えています。



#### 〈SAWAMURAからメッセージ〉

次世代のナカサク様に繋がっていくためのターニングポイント。それが、新・厚生棟を建て替えるプロジェクトなのではないかと捉えています。だからこそ、経営層から与えられたものではなく、社員様の想いをしっかり反映したいと思いました。単に建物を建てるというより、これからのナカサク様をつくるという強い気持ちで伴走させていただきました。

SAWAMURA 河村 直子